11－2 北海道被害地震表

年 月 日	震央名	緯度	経度	M	被害の要因		北海道内における被害状況
					地震	津波	
1611 12. 2	三陸沖	39.0°	144.4°	8.1		○	東蝦夷地大津波、死者多し
1635 3.11	北海道南西沖	※ 41.5°	140.0°	—	○		松前で強震、火災発生
1640 7.31	渡島支庁東部(北海道駒ケ岳の噴火)	42.1°	140.7°	—		○	駒ヶ岳噴火、噴火湾津波、死者700名余
1663 8.16	有珠山の噴火	—	—	—	○		有珠山噴火、山頂崩壊、死者5名、地震を伴う
1741 8.28	北海道南西沖(渡島大島の噴火)	41.6°	139.4°	6.9		○	大島噴火、大津波、死者1467名
1763 1.29	青森県東方沖	40.3/4°	143.5°	7.9		○	函館地方で強震と津波
1766 3. 8	青森県津軽北部	40.7°	140.5°	7.1/4 ±1/4	○		松前地方で強震
1780 5.31	千島列島	※ 45.3°	151.2°	7.0		○	大津波、ウルップ島死者4名
1792 6.13	北海道西方沖	43.3/4°	140°	7.1	○	○	積丹半島東側に津波、死者あり
1822 3.12	有珠山の噴火	—	—	—	○		死者50名、負傷者53名
1833 12. 7	山形県沖	38.9°	139.1/4°	7.1/2 ±1/4		○	福山で強震、津波、函館地方浸水
1834 2. 9	石狩湾	43.3°	141.4°	6.4	○		石狩にて地割泥吹出、家屋全半壊26
1835 7.20	宮城県沖	38.5°	142.5°	7.0		○	根室地方に津波被害
1839 5. 1	釧路沖	※ 42.7°	144.9°	7.0	○		厚岸国泰寺で石灯籠・戸障子など破損
1843 4.25	根室半島南東沖	42.0°	146.0°	7.5	○	○	根室、釧路地方で家屋船舶破損、大津波死者45名
1856 8.23	青森県東方沖	41.0°	142.1/2°	7.5	○	○	太平洋沿岸大津波、家屋流出、船舶破損
1881 10.25	北海道東方沖	43.3°	147.3°	7.0	○		根室地方で陶器などに損害
1893 6. 4	北海道東方沖	43.5°	148.0°	7.3/4		○	色丹島に津波、エトロフ島で岩石崩壊
1893 6.13	根室半島南東沖	42.5°	145.5°	6.9	○		落石灯台一部破損
1894 3.22	根室半島南東沖	42.5°	146.0°	7.9	○	○	根室、釧路地方家屋大破、津波、漁船流出
1896 6.15	三陸沖(明治三陸沖地震津波)	39.5°	144.0°	8.2		○	太平洋沿岸大津波、家屋漁船流出、死者6名
1896 11.18	根室半島南東沖	43.0°	146.5°	6.7	○		根室地方で器物転落破損、酒造家に被害
1899 5. 8	根室半島南東沖	42.8°	146.2°	6.9	○		根室、釧路地方で土蔵・家屋破損
1899 11.10	根室半島南東沖	43.0°	146.0°	6.5	○		落石灯台一部破損
1900 8.29	青森県東方沖	41.2°	142.8°	6.8	○		函館地方で器物落下破損
1900 12.25	根室半島南東沖	43.0°	146.0°	7.1	○		根室地方で落石灯台一部破損、渡島で壁の脱落
1901 1.14	十勝沖	42.3°	143.8°	6.8	○		広尾地方で器物転倒破損
1902 5.28	釧路沖	42.8°	144.8°	6.5	○		釧路地方で器物落下破損
1904 3.18	根室半島南東沖	42.7°	146.1°	6.8	○		根室で土蔵の壁に亀裂
1904 7. 1	根室半島南東沖	42.8°	146.4°	6.4	○		根室、厚岸地方で壁、土地亀裂、厚岸灯台一部破損
1907 7. 6	国後島付近	43.7°	145.5°	6.7	○		根室で地割れ、器物破損
1907 12.23	根室支庁北部	43.8°	145.0°	6.9	○		釧路地方で器物転倒破損
1909 9.17	苫小牧沖	42.0°	142.0°	6.8	○		十勝・日高・渡島地方で器物転倒、浦河で地割れ、恵山・浦河灯台で小被害
1910 7.24	胆振支庁西部	42.5°	140.9°	5.1	○		虻田村で建物破損、有珠山噴火
1910 9. 8	北海道北西沖	44.2°	141.6°	5.3	○		留萌郡鬼鹿、苫前で家屋小破損
1913 2.20	浦河沖	41.8°	142.3°	6.9	○		帯広、浦河で器物落下
1913 8. 1	浦河沖	41.8°	142.5°	5.7	○		浦河地方で壁脱落
1915 3.18	十勝沖	42.1°	143.6°	7.0	○		帯広地方で家屋倒壊、死者2名
1916 3.18	釧路沖	41.5°	144.5°	6.6	○		釧路で器物転落破損
1918 5.26	北海道北西沖	44.2°	141.6°	5.8	○		留萌郡鬼鹿で商品の転倒
1918 9. 8	千島列島	45.5°	152.0°	8.0	○	○	ウルップ島で津波により死者24名、家屋全滅、船舶破損
1926 9. 5	十勝沖	42° 27′	143° 42′	6.7	○		帯広地方で地割れ、送電線の断線、器物落下破損
1931 2.17	日高支庁東部	42° 07′	143° 06′	6.8	○		浦河、静内地方で壁脱落、器物転落破損
1931 3. 9	三陸沖	40° 09′	143° 20′	7.2	○		函館で煙突倒壊
1931 3.30	釧路支庁中南部	43° 02′	143° 54′	6.4	○		釧路、白糠、音別方面で電話線障害
1932 11.26	日高支庁中部	42° 21′	142° 28′	6.9	○		日高地方一帯で壁破損、器物破損
1933 3. 3	三陸沖(昭和三陸沖地震津波)	39° 08′	145° 07′	8.1		○	太平洋沿岸大津波、家屋倒壊、漁船流出・破損206、死者13名
1938 5.29	釧路支庁北部	43° 31′	144° 27′	6.1	○		屈斜路湖付近で家屋倒壊、死者1名
1940 8. 2	北海道西方沖	44° 22′	139° 49′	7.5	○	○	日本海沿岸津波、漁船全壊・流出214、天塩で死者10名
1947 11. 4	北海道西方沖	43° 55′	140° 48′	6.7		○	小津波、稚内で小舟破損
1952 3. 4	釧路沖(1952年十勝沖地震)	41° 42′	144° 09′	8.2	○	○	太平洋側一帯大被害、津波、家屋全壊815、死者28名
1952 3.10	十勝沖	41° 45′	143° 26′	6.9	○		本震で損壊した建物が転倒、家具・商品に小被害
1952 11. 5	カムチャッカ半島東方沖※	52° 45′	159° 30′	7.9		○	太平洋岸津波、釧路地方で浸水
1953 7.14	北海道南西沖	42° 05′	139° 55′	5.1	○		熊石で強震、小屋倒壊、水産課工場壁に亀裂
1956 3. 6	網走沖	44° 21′	144° 07′	6.3	○		網走地方で煙突倒壊、小津波
1958 11. 7	択捉島南東沖	43° 47′	148° 17′	8.1	○	○	根室、釧路地方で器物損傷、小津波
1959 1.31	釧路支庁中南部	43° 23′	144° 22′	6.3	○		弟子屈、阿寒で家屋破損
1959 11. 8	北海道西方沖	43° 50′	140° 38′	6.2	○		札幌、小樽方面で変電所に軽い被害
1960 5.23	南米チリ沖「チリ地震津波」※	S39° 30′	W74° 30′	8.5		○	太平洋沿岸一帯大津波、住宅浸水3,067、死者8名、不明7名
1961 8.12	釧路沖	42° 54′	145° 17′	7.2	○		釧路地方で家屋損壊、煙突倒壊、小津波
1961 11.15	釧路沖	42° 45′	145° 22′	6.9	○		道東方面で通信施設に軽い被害、小津波

年　月　日	震　央　名	緯　度	経　度	M	被害の要因		北海道内における被害状況
					地震	津波	
1962　4.23	十勝沖	42° 28′	143° 46′	7.1	○		十勝、釧路地方で煙突倒壊、小津波
1963　1.28	根室支庁北部	43° 35′	144° 43′	5.3	○		中標津町付近で建物にひび割れ・一部剥脱
1963 10.13	択捉島南東沖	44° 03′	149° 50′	8.1		○	津波、エトロフ、ウルップ島で被害
1964　1.20	根室支庁北部	44° 01′	145° 10′	4.5	○		羅臼町で器物落下、壁に亀裂
1964　5.31	北海道東方沖	43° 16′	146° 58′	6.7	○		根室、釧路地方で器具・商品に小被害
1964　6.23	根室半島南東沖	43° 05′	146° 09′	6.8	○		根室釧路地方で煙突倒壊、建物一部損傷
1965　8.31	釧路支庁北部	43° 31′	144° 27′	5.1	○		弟子屈で住宅全壊2
1965 10.26	国後島付近	43° 48′	145° 38′	6.8	○		釧路地区で煙突倒壊、器物落下破損
1966　5.27	渡島支庁北部	42° 11′	140° 09′	4.0	○		鉛川鉱山坑道で落石、小規模な地崩れ
1967　9.19	釧路沖	42° 56′	145° 28′	6.2	○		釧路市内で器具、商品の転落小被害
1967 11.　4	釧路支庁北部	43° 32′	144° 20′	6.5	○		釧路・網走支庁で建物一部破損、道路の損壊
1968　1.29	北海道東方沖	43° 21′	146° 54′	6.9	○		根室市内で器物損傷、小津波
1968　5.16	青森県東方沖 「1968年十勝沖地震」	40° 42′	143° 36′	7.9	○	○	北海道南西部で被害大、函館大学の一階が圧壊、建物全半壊106、死者2名、津波
1968　7.17	宗谷支庁北部	不明　不明	不明　不明	不明	○		間寒別豊神地区で校舎一部損傷
1968　9.21	浦河沖	41° 59′	142° 46′	6.8	○		浦河で器物損傷
1968 10.　8	浦河沖	41° 52′	142° 39′	6.2	○		日高地方で鉄道の路盤沈下、橋脚亀裂、家財損傷
1969　8.12	北海道東方沖	43° 23′	147° 54′	7.8	○	○	浜中町で養殖いかだ破損、津波
1970　1.21	十勝支庁南部	42° 25′	143° 09′	6.7	○		日高、十勝地方で負傷者32名、住家全半壊9
1971　8.　2	十勝沖	41° 18′	143° 32′	7.0	○		日高地方で壁亀裂、橋梁破損、小津波
1971　9.　6	サハリン西方沖	46° 28′	141° 12′	6.9		○	留萌港で小型船沈没3
1973　6.17	根室半島南東沖 「1973年6月17日根室半島沖地震」	43° 04′	145° 58′	7.4	○	○	根室、釧路地方で負傷者28名、住家破損、水道管破裂
1974 11.　9	苫小牧沖	42° 33′	141° 45′	6.3	○		日高地方で建物一部破損
1978 12.　6	択捉島付近	44° 44.0′	146° 58′	7.2	○		根室市内で窓ガラス破損
1981　1.23	浦河沖	45° 25′	142° 12′	6.9	○		胆振、日高、渡島で建物一部破損
1982　3.21	浦河沖 「昭和57年(1982年)浦河沖地震」	42° 04′	142° 36′	7.1	○		日高地方被害、重軽傷者167名、住家全壊13、橋脚破損、小津波
1983　5.26	秋田県沖 「昭和58年(1983年)日本海中部地震」	40° 22′	139° 04′	7.7		○	渡島、檜山、奥尻島に大津波、漁船沈没流出222、死者4名
1986 11.13	空知支庁北部	43° 48′	141° 51′	5.5	○		空知・留萌支庁管内で負傷者1名、住家損傷133
1987　1.14	十勝支庁南部	42° 32′	142° 56′	6.6	○		胆振・十勝・釧路地方で被害、負傷7名、建物一部破損24
1991　4.24	釧路沖	42° 43′	144° 51′	5.5	○		釧路地方の住宅一部破損
1991 11.27	浦河沖	42° 00′	142° 40′	6.3	○		帯広市立図書館のガラス破損、浦河町で商品落下
1993　1.15	釧路沖 「平成5年(1993年)釧路沖地震」	42° 55′	144° 21′	7.5	○		釧路死者2名、住家全半壊307、住家一部破損5,311
1993　7.12	北海道南西沖 「平成5年(1993年)北海道南西沖地震」	42° 47′	139° 11′	7.8	○	○	津波による被害大、死者201名、不明28名、住家全半壊1,009、船舶の沈没流出676
1994　8.31	根室半島南東沖	43° 30′	146° 04′	6.3	○		軽傷1名、壁亀裂2、停電3,111
1994 10.　4	北海道東方沖 「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」	43° 23′	147° 40′	8.2	○	○	負傷者437名、住家全半壊409
1994 12.28	三陸沖 「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」	40° 26′	143° 45′	7.6	○		軽傷2名
1995　5.23	空知支庁中部	43° 39′	141° 43′	5.9	○		空知、留萌支庁管内で住家被害37
1999　5.13	釧路支庁中南部	42° 58′	143° 52′	6.3	○		軽傷2名
2000　1.28	根室半島南東沖	43° 00′	146° 45′	7.0	○		軽傷2名
2003　9.26	十勝沖 「平成15年(2003年)十勝沖地震」	41° 47′	144° 05′	8.0	○	○	死者1名、不明1名、重傷68名、軽傷779名、住家全半壊484、コンビナートタンク火災
2004 11.29	釧路沖	42° 57′	145° 17′	7.1	○		重傷7名、軽傷45名、住家全半壊1、住家一部破損4
2004　12.6	釧路沖	42° 51′	145° 21′	6.9	○		重傷1名、軽傷11名
2004 12.14	留萌支庁南部	44° 05′	141° 42′	6.1	○		軽傷8名、住家一部破損165
2005　1.18	釧路沖	42° 53′	145° 00′	6.4	○		重傷1名
2008　4.29	青森県東方沖	41° 28′	142° 07′	5.7	○		軽傷2名
2008　7.24	岩手県沿岸北部	39° 44′	141° 38′	6.8	○		重傷1名
2010　2.27	チリ中部沿岸	36° 10′	W72° 90′	8.8		○	道路の冠水、港湾施設の冠水、避難指示1市、避難勧告25市町
2011　3.11	三陸沖「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」	38° 06′	142° 52′	9.0	○	○	死者1名、軽傷者3名、住家半壊4棟、一部破損7棟床上浸水329棟、床下浸水545棟
2011　9.7	日高地方中部	42° 16′	142° 35′	5.1	○		住家一部損壊1棟
2012　12.7	三陸沖	38° 01′	143° 52′	7.3	○		住家一部損壊1棟
2013　2.2	十勝地方南部	42° 42′	143° 14′	6.5	○		軽傷者12名、住家被害1件、非住家被害2件、、教育関係施設25施設でガラス破損等被害、一部停電・断水
2014　7.8	胆振地方中東部	42° 39′	141° 16′	5.6	○		軽傷3名
2016　1.14	浦河沖	41° 58′	142° 48′	6.7	○		軽傷2名
2016　6.16	内浦湾	41° 57′	140° 59′	5.3	○		軽傷1名、住家一部損壊3棟
2017　7.1	胆振地方中東部	42° 47′	141° 52′	5.1	○		–
2018　9.6	胆振地方中東部 「平成30年北海道胆振東部地震」	42° 41′	142° 00′	6.7	○		死者44名（災害関連死3名含む）、重傷者51名、中等傷8名、軽傷者726名、住家全壊491棟、住家半壊1,816棟、住家一部損壊47,105棟、道内全域停電、断水44市町村
2019　2.21	胆振地方中東部	42° 46′	142° 00′	5.8	○		住家一部損壊1棟、軽傷者6名
2022　8.11	上川地方北部	44° 51′	142° 07′	5.4	○		住家一部損壊2棟
2023　2.25	釧路沖	42° 45′	145° 05′	6.0	○		
2023　6.11	浦河沖	42° 34′	141° 55′	6.2	○		
2025　7.30	カムチャツカ半島付近	52.12’	160.0’	8.7		○	重傷1名、軽傷11名
2025 10.25	根室半島南東沖	42.54’	145.36’	5.8	○		–
2025　12.8	青森県東方沖	40° 58’	142° 17’	7.5	○	○	重傷1名、軽傷10名、住家一部損壊1棟

注）1　1919年1月以降の震源要素は気象庁による。（被害状況は北海道のとりまとめによる。）
1885年～1918年12月の震源要素は茅野・宇津（2001）による。
～1884年の震源要素は宇佐美（2003）による。
2　1952年のカムチャッカ半島東方沖の震源は国際地震学及び地球内部物理学協会、
1960年のチリ沖「チリ地震津波」の震源は米国地質調査所による。
3　※印の地震の緯度・経度・M（マグニチュード）は参考文献による。